

# ダイジェスト版



今月の協力隊員 榎本郁美 隊員  
☎ 農政課 ☎ 22-2111

はじめまして！

4月から中野市地域おこし協力隊になりました榎本郁美と申します。埼玉県から中野市に移住してきました。前職は小学校の給食を作る仕事をしていて、食べること、体を動かすことが大好き。最近は山登りにハマっています。

去年の今頃は中野市のことを知らず、まさか移住をするなんて夢にも思いませんでしたが、中野市の素敵な皆さんと豊かな自然に出会い、私の夢とタイミングも重なって迷わず移住を決めました。

これから、「食から農業を活性化」というプロジェクトで、栄養士、調理師の資格を生かしさまざまなことにチャレンジしていきたいと考えています。皆さん、ぜひ私に中野市の良い所を教えてください！

- 1\_ 4月1日の任命発令式。「持ち前の笑顔で頑張ります」。
- 2、3\_ 昨年の8月、梨久保の松野富子さん宅でお世話になり、ぼたんこしょうやブルーベリーの収穫体験をしました。



## 3世田市長の vol.73 わくわくレポート

### 新型コロナウイルスから身を守る

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。人間には本来免疫機能が備わっており、外部からのウイルスなどの侵入に対して防御体制がある。今回のコロナウイルスについては未知のものであり、その性質などがよくわかっていない中での、感染拡大となった。

感染を拡げない為には、三つの「密」を避けるということが効果的であるとのこと。つまり「密閉空間」「密集場所」「密接場面」を避ける、そうした機会をつくらないことが感染拡大を防ぐ。

ところで、聞くところによれば8割程の人は感染しても軽度の症状または無症状とのことである。こうした傾向には年齢差があるとのことであるが、個人々の健康度合いにもよるところが多いと考えられる。



新型コロナウイルス感染症の中野市対策本部会議。市では国の緊急事態宣言を受け、直ちに法的根拠のある対策本部を設置しました。

基礎疾患がなく、免疫力のある感染症に強い身体を普段からつくっていることは、大切なことである。それには、適度な運動、バランスの取れた食生活、睡眠、生活習慣の改善など、日々の取り組みの積み重ねが必要だ。

手洗い、うがいは勿論のこと、衛生管理をしっかりと、健康な身体づくりに留意することが大切だ。幸い、中野市には身体づくりに必要な食材が豊富にある。中でも、きのこは免疫力を高める食材として、かねてより知られている。免疫力を高める食材には納豆やヨーグルトなど発酵食品があげられるが、共通するところは菌食である。私たちに身近なきのこをはじめとした身体に良い食材をとりながら、皆さんと支え合い、この難局を乗り越えたいと思う。

テーマ	SDGs (エスディーゼズ) 普及に関する研究	中野市が「愛される都市」となるための課題と戦略	つながりを誘発するための仕組みに関する研究
研究目的	「SDGsを知ってもらう」ことから始め、それを周知・普及するための効果的な手段を明らかにする	特に高校生世代に本市に対する愛着を持ってもらうためのアクションプランを提案	「市民参加と協働のまちづくり」推進のため、市民活動団体などをつなげる仕組みを明らかにする
内容と結果	<p>▼楽しみながら学ぶ</p> <p>SDGsの取り組みは、地域活性化や課題解決に効果的であるとされているが、県内でSDGsを知っている人の割合は7.7%と低い状況にある。まずは小学生を対象にSDGs出前授業を実施。カードゲームなどで楽しみながらSDGsを学び、「出前授業が効果的な手段である」ことがわかった。</p> <p>また、市職員アンケートにより、職員はSDGsをある程度認知しているが、「関心はあまり高くない」ことがわかった。</p> <p>▼起点は子ども</p> <p>まず、子どもを起点としてSDGsを普及する手法は効果的であり、報道を通して地域へのPRにつなげることも期待できる。</p> <p>また、行政の仕事は幅広く、SDGsと密接に関連していることから、中野市職員がSDGsに貢献しているという意識を持ち、推進することが必要である。</p>	<p>▼地域への愛着</p> <p>中野西高校の全生徒を対象にアンケート調査を行うと、「地域への愛着が高い人ほどUターン希望が高まる」という結果が得られ、愛着とUターン希望には関連性があることが分かった。</p> <p>また、愛着の高い人の特徴として、本市のイベントやシンボルに詳しい人であることが分かり、「詳しくなってもらえるアクション」を起こすことで、「相対的に、本市のことを今以上に好きになってもらえる」可能性があると考えた。これを受け、高校生に中野市に詳しくなってもらえるためのワークショップを開催。地域に興味を持つこと、詳しくなることで地域を好きになり、愛着を醸成することにつながると考えることができた。</p>	<p>▼「場」へのニーズ</p> <p>(公社)中野青年会議所が開催した「コミュニティ大作戦会議」で実施されたアンケートから、多くの団体が、他の団体などとのつながりを求めていることが分かった。</p> <p>そこで、つながりを深めるうえで場所(ハード)と仕組み(ソフト)が必要ではないかと考え、県内の自治体や市内の団体へのアンケート調査及び、ヒアリング調査を実施した。調査の結果、「場」によりつながりが発生していることや「場」へのニーズがあることから、「場」の提供が効果的だと分かった。また、「場」の提供に加え、さまざまなプログラムの展開や惹きつける魅力により、継続的に人が集まることが分かった。</p> <p>▼「場」×「プログラム」</p> <p>市の総合計画に掲げる「市民参加と協働のまちづくり」を進めるうえで、市民活動団体が他団体などにつながる仕組みとして、既存の公共施設の有効活用などによる「魅力ある場」とコーディネーターの配置などの「魅力あるさまざまなプログラム」を掛け合わせて取り組むことが効果的である。</p> <p>▼若者と地域とのかかわり</p> <p>若者が主体的に地域とかわり行動することで、地域への愛着は着実に高まり、地域への定着につながっていくと考えることができた。</p> <p>今後、ワークショップを経て検討した提案を、市内にある2つの高校に協力を得て実施し、高校生の本市に対する愛着が高まるか検証を行いたい。</p>



詳細な報告書は市公式ホームページからダウンロードできるほか、政策情報課で配布しています。